
○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時00分）

◇ 佐 藤 作 行 君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位3番、佐藤作行君。

（3番 佐藤作行君 登壇）

○3番（佐藤作行君） 通告に従いまして、一般質問を行います。

今日は3点について町長にお尋ねしたいと思います。

1番目は、「ノロウィルス対策は万全か」でございます。「各地でノロウィルスによる中毒が発生しているが当町の対応は万全か」であります。1番に、学校給食関係。それから、町営まつぎき荘関係。それから、道の駅花の三聖苑そのほかでございます。

2番目は、「空き屋バンクの現状と農地バンクの展望は」ということで質問いたします。下に、設立の可能性そのほかです。

1番としまして、空き家バンクの現状はどうですか。2番目、他町村実施実績もある農地バンクの設立と展望です。3番目に、1、2番の連携による定住者等の増加を図る考えはあるかです。

3点目としまして、まっち一君、松崎のシンボルであります桜の葉をマスクに被っております。それから、なまこ壁のスカートをはいております。これの、私は将来的になんか日本一がなくなるんじゃないかという危機感を持っておりますが、それに対する「現状と対策は」でございます。

小さい1番としまして、桜葉の生産減と日本一維持の方策あるいはそれに対して苗木生産の補助、消費拡大の方策、町の考え方を伺います。

2番目として、なまこ壁の保存と修理、町の補助などに対する基本的な町の考え方を伺います。

3番目として、耕作放棄地からの作付転用ですね。これの補助の考えはあるか。耕作放棄地の対策としてでございます。

以上をもって、壇上からの質問を終わります。

（町長 齋藤文彦君 登壇）

○町長（齋藤文彦君） 佐藤作行議員の一般質問にお答えします。

１．ノロウイルス対策は万全か。

①「各地でノロウイルスによる中毒が発生しているが当町の対応は万全か。学校給食・町営伊豆まつぎ荘・道の駅花の三聖苑」についてであります。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒は、冬季に流行しており、最近では１月１７日に浜松市の幼稚園２園、小・中学校１８校で、１１００人以上が学校給食の食パンで集団感染した事件が大きく取り上げられました。

ノロウイルスの予防には、食品取扱者や調理器具からの二次感染を防止することが重要であり、調理の際に石けん、流水でしっかり手の汚れを落とすことや調理器具を洗浄消毒することが必要となっております。また、二枚貝などの食品の場合は、加熱処理が有効とされています。

町で飲食を取り扱っている施設は、ご質問にもあります学校給食を行っている共同調理場をはじめ一般財団法人松崎町振興公社に管理委託しております公共の宿伊豆まつぎ荘、道の駅花の三聖苑、重文岩科学校開化亭、明治商家中瀬邸があります。ノロウイルスへの感染は様々な感染経路がありますが、そのひとつに食品取扱者が感染して、その人を介して汚染した食品を食べて感染する場合があります。

共同調理場は、多くの子どもの給食を作っていますので、調理従事者は給食から食中毒は絶対出さないという強い気持ちで衛生管理には非常に神経を使っており、具体的な日常の衛生管理は、「学校給食衛生管理基準」に基づき、調理従事者については、「健康観察記録票」で、本人及び家族の毎日の健康状態をチェックし、また、施設については「衛生管理チェックリスト」により、作業前、作業中、作業後の施設設備、食品の取扱、服装等の点検を行って、安全な給食の提供に努めております。

その他の施設におきましても、食中毒防止講習会への参加を通じて知識の習得や情報の共有を図り、ノロウイルスに係らず食中毒を起こさないよう、万全を期しております。

なお、ノロウイルスが発生すると、多くの皆さまに健康被害を与え多大なるご迷惑をおかけし、特に、観光施設におきましては経営的な影響や施設、ひいては町のイメージダウンにもつながりますので、更に気を引き締めて対応してまいりたいと考えております。

２．空き屋バンクの現状と農地バンクの展望は。（設立の可能性は）

①「空き家バンクの現状は」②「他町村実施実績もある農地バンクの設立と展望は」についてであります。

町では、町内における空き家及び空き地の有効活用と定住促進による地域の活性化を図ることを目的に、昨年6月から空き家情報バンク制度を始め、区長会や回覧、広報、ホームページで物件情報の登録をお願いしてきました。

現在、空き家情報バンクの情報提供を受けたいという方の登録は3名ありますが、肝心の物件登録はゼロであり、3月の広報で、再度、物件登録をお願いしているところです。

このような状況を踏まえて、町では、平成12年度に緊急雇用創出事業で松崎町商工会に委託し作製した、空き家・遊休地調査台帳をもとに、再調査を行い、物件所有者の方に空き家情報バンクへの登録をお願いしてまいりたいと考えております。

なお、農地バンクにつきましては、後継者対策として耕作放棄地などを経営拡大や新しく農業を始めたい担い手と結びつけるため、全国農業会議所と連携し、平成22年8月から農地貸借等の情報をホームページで公開しており、現在138筆、6万6260㎡の田や畑の情報が登録されております。

③「①②の連携による定住者増加を図る考えはあるか」についてであります。

松崎町第5次総合計画では、平成34年の総人口を6200人程度と予測し、あらゆる分野において、魅力ある施策を展開し、人口減少に努め、平成34年の目標人口を7000人とさせていたいただきました。

定住人口を増加させるためには、町の情報を積極的に発信する必要があり、空き家バンクと農地バンクは、議員のご質問のとおり連携して進めていくことが重要と考えております。

また、これらの情報提供に加え、「農業後継者対策奨励金」や農作業の効率化や耕作地の営農再開等を目的とした「農地活用条件整備対策事業」と「耕作放棄地緊急対策事業」、国の青年就農交付金、中山間地域直接支払制度の活用支援などを行い、定住者の増加を図ってまいります。

3. まっちゃん君のシンボル桜の葉となまこ壁対策は。現状と対策は。

①「桜葉の生産減と日本一維持の方策は。苗木生産への補助、消費拡大への方策、町の考え方は」についてであります。

桜葉のある風景は環境省の「かおり風景百選」にも選ばれ、町を代表する風景となっています。

桜葉生産は、昭和30年代半ば頃から始まり、当時は200戸ほどの農家で栽培されていたということですが、その後は高齢化や農業に対する制限の強化などから減少を続け、2010年には100戸、20ヘクタールにまで半減し、たいへん憂慮しております。

桜葉は松崎を代表する作物であり、すでに6次産業化もされております。途切れることなく安定的に生産できるようにするには、個人農家での栽培形態から大規模化、集約化することが必要であると考えます。既存制度や今後始まる新たな制度を使いながら、桜葉を含んだ特産品の安定栽培を支援していきたいと考えております。

②「なまこ壁の保存と修理、町の補助、基本的な考えは」についてであります。

「日本で最も美しい村」連合の加盟申請に際して、当町があげた地域資源の一つに「なまこ壁の建造物」があり、

現在、町内200棟余りの建物が残り、歴史的にも、観光的にも、町の貴重な財産となっております。

なまこ壁の保存や修理等への対応につきましては、伊豆の長八美術館から役場周辺において、平成6年度から民家のブロック塀になまこ壁を施工する「ナマコ壁技術伝承事業」を行い、左官技術の伝承や景観整備、誘客を図っており、現在その延長は670m余りとなっております。

また、平成14年度には、教育委員会「海鼠壁のある建物」の調査、平成16年度からは、「松崎蔵づくり隊」によるなまこ壁の啓蒙、保存活動も行われています。

議員もご承知のとおり、重文岩科学校や明治商家中瀬邸、伊豆文邸を除き、多くの建物は個人所有であることから、これまで町で修理等は行っておりません。

12月定例会の一般質問において、回答をさせていただきましたが、今後、重要な建造物については、町文化財指定の検討や維持・修繕に係る補助制度の創設を図ってまいりたいと考えております。

③「耕作放棄地からの作付補助の考えはあるか」についてであります。

耕作放棄地を再生して農地として活用するにあたり、当町では「松崎町耕作放棄地緊急対策事業」として支援しております。この制度は、耕作放棄地を解消し、新たな担い手を確保し、耕作放棄地に起因する様々な問題を解消することを目的としておりまして、今までにも、桜葉や果樹、ソバなどが耕作放棄地を再生して栽培されています。

事業メニューといたしましては、再生作業や土づくり、作付け等もありますので、これらを利用し取り組んでいただければと思います。

以上でございます。

○3番（佐藤作行君） これより一問一答にてお願いいたします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○3番（佐藤作行君） 最初にノロウイルス対策なんですけど、これは、質問を出したのが2月3日でございます、ちょうどノロウイルスが近隣市町村でかなり発生しております、南伊豆の「季一遊」ですか、あそこなんかでも発生したなんていう時でございましたので、大変心配していたわけなんですけど、リストでチェックして気を引き締めてやっているという回答なんですけど、各担当に具体的にどういう予防策を取っているのか。

また、それで万全と考えているかをちょっとお伺いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） 詳しいことは担当課長の方から話をしますけれども、今は食中毒の50パーセント以上はノロウイルスということで、非常に気を使っています。

先ほど申したとおり、ノロウイルスの予防には食品取扱者や調理器具からの二次感染を防止することが重要であるということで、これを徹底してやっているわけですが、詳しいことについては課長の方から。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 共同調理場におきましては、先ほど言いましたように、衛生管理基準というものがございまして、それによって衛生管理者が栄養士、栄養教諭になっています。そちらの指示のもと調理従事者には、まず手洗いとか、エプロンの交換、そういうものにつきましては、細かく言いますといっぱいありますので、基本的には手洗いは徹底して、それから、調理場には汚染地区、非汚染地区といたしまして、いわゆる下処理をするところは汚染地区、調理室等は非汚染地区、そういったものを行き来する時には、エプロンを替えるとか、直接持っていないとか、そういった衛生管理基準に則って普段から徹底してやっている状況でございます。

○企画観光課長（山本 公君） 給食の調理場と合わせて振興公社が管理している施設等があるわけですが、対処の方法については、先ほど町長が申し上げたとおりでございます。各施設においては、食品衛生責任者がそれぞれいるわけですが、この方が講習を受けて、それらを学んだものを施設に、職員に落とすということの中で、そういうものを注意していくというようなことでやっております。

また、そういう情報というんですかね。「こういうことをやっていきましょうよ」というような告知も当然やっているわけございまして、施設がやはりそういったものを発生させますと観光的にも非常にダメージが大きいものですから、特に注意をしてやっているところでございます。

○3番（佐藤作行君） はい。ありがとうございます。万全ということですので、先に進めた

いと思います。

次に、空き家バンク、それから、農地バンクですね。この関係についてお伺いします。申し込みアクセス数が3名、それから、農地バンクですか、まだ0件ということなんですが、これを活用して、定年後松崎町に住みたいとか、そういう方を定住促進ですね。そういうことに繋げたいと思っているという回答なんですけど、0件じゃ、これは話にならないですし、そこらの拡大をしたらなんとかという方法について、町長にどんなふう考えているか、お伺いします。

○町長（齋藤文彦君） 先ほど答弁で答えたわけですけども、情報提供を受けたいという方が3名あったわけですけども、登録はゼロですので、非常に寂しいわけですけども、自分も2人紹介したことがありますして、自分のカヌー仲間とか、そういう関係の方が「どこありませんか」というようなことがございまして、「地元にこういうことがありますよ」というようなことで、私は話をつけることがあるわけですけども、なかなか登録物件が出ないことには、なかなか進みませんので、これをうまく登録させるためのことをやらなければいかんと思っているわけですけども、先ほど答えたとおり、緊急雇用創出事業で松崎町商工会に委託した空き家・遊休地調査台帳というのがありますので、再度調査して、こういうのを登録してやっていきたいなと思っています。

○3番（佐藤作行君） こちらについては、やっぱり町のPR体制なんかやっぱり不足している面なんかもあるんじゃないかと思いますけれどね。広報とか、あるいはインターネット、あるいはその他のメディアですね。そういうところの活用状況なんかはどうなっているでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 区長会等で詳しく説明しているわけですけども、なかなか浸透していかないところがございます。ネットの方の関係はわかりますか。じゃあ、課長の方から。

○企画観光課長（山本 公君） そのネットの状況というか、そういう件数自体をいま把握しておりませんが、町長が先ほど申しましたように、区長会とか、あるいは回覧ですとか、広報ですとか、ホームページですとかでご案内をさせていただいて、物件の所有者の方に登録をお願いしているわけですけども、それがただ今のところゼロだということでございます。

物件を利用したいという方の登録は先ほど言いましたように3件あるということなんですけども、物件自体がゼロということですので、町長が先ほど述べました平成12年に作りました空き家の台帳があります。それには建物として225件の調査の結果があるわけですけども

も、その内、114件は公開していいよということなんですけれども、実際はほとんどが使っておりまして、その中で使われていないのが17件くらいしかなかったわけです。

ですから、その台帳がありますので、平成26年度において、その台帳を基にもう一度臨時職員をお願いしまして、全域を調査をかけると、その中で利用が可能である、使っていいよというものは登録をお願いしまして、ホームページ内で公開していくような形を取りたいというふうに現在考えております。

○産業建設課長（山本秀樹君）　ここは農地バンクの方もありますので、農地バンクについて少しお答えをしておきますと、農地バンクの方は、22年の途中から始めまして、今現在直接役場に来て、台帳を閲覧したという方々が12名ほどいらっしゃいます。その中で実際に町内に転入してきている方が、見に来た方の中で4件、12件来て4件は町内に実際に来て、いま農業等をやられている方もいらっしゃいます。一応そんな状況で。なお、ネット上、ホームページ上とか、それから、全国農業会議所のホームページともリンクしておりますので、そちらからも覗けるようになっていきますので、ネット上ではかなり見ているんじゃないかなという感じはします。その関係で直接はこちらの方にお見えではないですけれども、電話での問い合わせというのはそれなりの数がございます。以上です。

○3番（佐藤作行君）　はい。わかりました。

この空き家バンクあるいは農地バンクは、定年退職された方が新たに松崎町に居住するいい制度ですので、ぜひこれを発展させて、少しでも人口減少が食い止められるように頑張ってくださいと思います。

それでは、次へ進みます。まっちー君のシンボルの桜の葉っぱについてでございます。現在、まだ日本一ということで農業分野では、かなり有力な作物になっているわけです。それで、ピーク時には4億8000万枚あった生産量が、昨年には6000万枚まで減少しているわけです。非常に私は農業において億の産業というのは、ほかにはないわけですので。米は換算すれば億になるかもしれませんが、そのほかの作物で1億4000万円の売上のある作物はないわけです。それで、大変危機感を持っているわけなんです、町長の危機感は何の程度のものか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君）　本当に今、桜葉の生産量70パーセント、日本一と言われているわけなんですけれども、日本で日本一だったら、世界一にもなれるわけで、本当に危機感を抱いています。これは小泉さんの話なんですけれども、東経137度48分、北緯34度45分、この松崎、この南伊豆、西伊豆にかけての地域というのが桜葉の生産に最高に適していて、無毛でクマリンの多

い桜葉ができるということですので、ぜひこれを継続させていきたいなと思っています。
非常に危機感を感じているところでございます。

○3番（佐藤作行君）　それで、やっぱり生産者なんか話を聞きますとね。やっぱり後継者がいないとか、高齢化あるいは何というか、そのほかの消毒の関係とか、いろいろあるようですが、実際問題生産量がどんどん、どんどん毎年減っているということは、やっぱり端的に言うと、商売として合わないというような結論になるかと思うんですよ。

それで、やっぱり日本一のものを維持するんだったら、やっぱりある程度町の補助とかなんとかというものをやっぱりどこかの時点で考えているのかというようなことを望んでいるわけなんですけど、例えば、大島桜の種を拾ってくると、それで畑に蒔くわけなんですけれども、3年目にならないとその葉っぱが取れないと、そうすると、その3年間は種まきをしたあとは無収入のわけですね。農家の方は。その間に作付奨励金みたいな形で補助ができれば結構始める方も増えるんじゃないかと思っているわけですが、そこらの考え方はどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君）　佐藤議員といろいろ話すと、人口を増やすというようなことがよく話に出てくるわけですが、松崎町としてこの桜葉に関して、どこにお金を一番つぎ込んだら効果的かというようなことをいろいろ考えているわけですが、やっぱり生産者組合と加工組合、そしてまた、買う人ですね。そして、これは銀行さん入ってもらって、本当にオール松崎で桜葉をどうしたらいいかというのを・・・、その中に役場も入りますけれども、考えて、本当にどこへお金をつぎ込んだら一番活性化して、これから続けていくことができるかというのを考えざるを得ないと思います。

それで、そのようなことを皆さんで作って、オール松崎でその桜葉について考えていくというようなことが一番早道ではないかなと思っているところでございます。

○3番（佐藤作行君）　私の考え方と方向的に一緒だということで理解しておりまして、大変ありがたいことだなと思っていますので、ぜひそこらをよろしくお願いいたします。

それから、この桜葉の生産の・・・、現在日本一なんですけど、これを世界一なんていう話もあるわけなんですけど、そこらはどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君）　いま中国の方がすごく増えていると、それで、松崎の人たちもあるパン屋さんは中国のやつを使っているというような話で、最終的には生産量では負けるかもしれませんが、品質としてはやっぱり日本一は世界一になると思っていますので、このような考えで松崎町は進めていくべきだなと思っているところでございます。

○3番（佐藤作行君） はい。ありがとうございます。じゃあ、その話はその程度にしておきます。

あとは、なまこ壁の保存関係なんですけど、これは前回の一般質問で藤井議員がいろいろ質問したわけなんですけど、基本的には、個人の建物については個人で直していただくというような答弁だったんですが、そこらは現在も基本的な線というのは変わっていないでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） なかなか難しいわけですが、前回も答えたとおり、町文化財指定の検討や維持修繕に係る補助制度の創設を図っていきたいなと思っているところです。

私は、自分が町長の時に「ひさご」さんがなくなって、「梶寅旅館」さんがなくなって、その「梶寅旅館」さんに関しては、スミソニアン博物館の館長が二度も泊まりに来たとかというようにも聞いていまして、何かできないかなというのがあったわけですが、町として何もできなかったわけですが、無くなってからでは元に戻せませんので、何か本当にいい方法がないのかと、それで、やっぱり使いながら保存するというような形が一番いいと思うわけですが、そのような形になればいいわけですが、なかなか難しいところがあると思いますけれども、これは本当に知恵を絞ってやっていきたいなと思っているところでございます。

○3番（佐藤作行君） はい。ありがとうございます。

町当局としてもやりたい気持ちは十分あるけれども、制度が整っていないというようなことだと思いますけれども、先日、ちょっともう少し南に行った伊豆文邸を拝見させていただきました、やっぱり軒下なんか結構痛んでいたり、あるいは何と言うんですか、ひさしの中に入ったところの漆喰が剥げていたりとか、そんなようなところが結構見受けられるんですが、そこらを直すような気持はございますか。

○町長（齋藤文彦君） 昔、蔵づくり隊が蔵を作って、その伊豆文邸もいろいろ手伝ったわけですが、そのようなことができればいいのかなと思っているところです。

私の夢として、今度牛原山をどうするかとかいろいろやりますけれども、牛原山には昔、沢谷城があったというような話は聞いているわけですが、そのような城を復元するようなために、こういうなまこ壁とかなんとかでやって、皆さんが楽しみながらやれるような、避難路等も一緒に考えながらやればいいのかと思っています、そのようなことをやっていく必要があるのかなと思っているところです。これは何か蔵づくり隊等に話して、そういうことはできるのではないかなと思っています。

○企画観光課長（山本 公君） 伊豆文邸につきましては、建物は寄附を受けて、いま南区の伊豆文サポートという方々が管理をしているわけですが、壊れた部分については、なまこ壁技術伝承事業を使った中で、蔵づくり隊が修理をしたりとかしております。

悪いところがあれば、町の予算等、また町がいただいた施設ですので、それを使って修理をしていくというようなことで考えております。

なまこ壁の建物につきましていろいろお話があるわけですが、なかなか個人の建物だということで、出来ない部分というのがありますけれども、重要なものについては、町の文化財ということで登録することも可能でございますので、所有者の皆さんのご意見を賜わりながら、教育委員会等とも話しながら進めていくような形になろうかと考えております。

○3番（佐藤作行君） だいたいわかりました。ありがとうございました。

最後に、耕作放棄地あるいは作付補助、これはだいたいいろいろ挙げてもらいました補助制度があるということで、そういうのを利用して、あるいは定住、こちらへ移転して定住する方なんかにもそういう話をぜひ紹介していただいて、定住促進の助けにしていいただければと思っております。

時間はかなりありますけれども、だいたい聞きたいことは聞きましたので、最後に、締めに移りたいと思います。

このまっち一君ですね。これが顔に桜っ葉が付いていまして、あと、スカートになまこ壁が付いております。これがやっぱり使えなくなるようではやっぱり松崎町としては大変いけないことだと思いますので、まっち一君の姿を変えない松崎町づくりをぜひ町長にも目指していただきたいと、それをお願いして、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で佐藤作行君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午後 1時35分）